

- カーボンニュートラルや移行期における、エネルギーコストの見通し・海外比較、産業界への影響、今後の向かうべき方向性の示唆、について有識者からヒアリングを実施。
- プレゼンを踏まえて、下記の論点について、ご議論いただきたい。

## 論点 エネルギーコストの展望・影響を踏まえた、トランジション・社会システムの在り方

- ✓ エネルギーコストの上昇を最大限抑制するための方策は何か（エネルギー源、インフラ投資のあり方など）
- ✓ 産業ごとにエネルギーコスト上昇の影響が異なる中、エネルギートランジションをどのように進めるべきか
- ✓ エネルギートランジションに必要となるコスト増を乗り越えられる産業構造にどう転換していくか

### (参考) コスト負担に関するこれまでの意見

- 目の前の雇用や企業の優位性を踏まえたトランジションが重要になると認識。
- コストについては、一事業者だけでは負担できないため、どこまで民間が担い、さらに利用者と分担していくかを議論していくべき。
- 幸いなことにSDGsが広まり、持続可能性が消費者の中でもパワーワードになっている。消費者の中でCNに向けた負担分担の素地はできているのではないかと。
- 日本社会の負担を覚悟せよというメッセージという理解。日本の産業を守るという発想は重要。ただ守るだけでは勝てない。ルールが変わった中でどう日本が勝つか。46%削減は国の目標だが、それを実現した上で産業がボロボロになってはいけぬ。CNに向けた道筋を示しつつ、成長につなげることが重要。
- 少なく作ってたくさん使ってもらうことで沢山稼ぐ、という発想が大事。モノをつくることだけではだめ。
- 鉄・化学等の基礎産業は経済安保上日本に残すことが重要。排出係数との関係だけで切り捨てるという考え方は良くなく、こうした産業のトランジションのための検討が必要。
- 今後日本は、レジリエンスを考えると、いろいろな産業でサプライチェーンの組み替えが必要となる。